

**平成 17 年度医療保障総合政策調査・研究基金事業
「適正な薬剤使用に関する調査研究」最終報告書概要**

[はじめに] レセプトをデータベース化し保険者の立場から分析を加えることにより薬剤給付の合理性を検討した。

[調査対象レセプト] 首都圏を中心とする総合健康保険組合の平成 15 年 10 月および 11 月診療分全レセプト 150,336 件を対象とした。また前年からの変動を見るために、同一の保険組合の平成 14 年同時期の診療分全レセプト 141,904 件と比較した。解析は、これらのレセプトのうち、投薬ありの院内レセプトと院外レセプト及びそれに対応する調剤レセプトを対象として行った。

解析対象レセプト内訳件数

	平成 15 年			平成 14 年		
	診療所	病院	合計	診療所	病院	合計
院内	17345	6287	23632	19662	6307	25969
院外・調剤	24970	10277	37063	24631	8173	32804
合計	42315	16564	60695	44293	14480	58773

[総点数] 院内投薬の診療（以下「院内」）と院外投薬の診療（医科レセと調剤レセの合計、以下「院外」）の総点数は診療所では院外が約 245 点、病院では院内が約 107 点高い。しかし詳細に見てみると「診療所」と「病院」、「注射あり」と「注射なし」の間に大きな差が見られ、これらを統合して比較することは必ずしも適当ではないと判断される。また中央値はいずれも平均値に比べかなり低く、点数の分布が高い方に尾を引いた歪んだ分布となっていることを示している。中央値で比較するとすべて院外の方が高い結果となった。平成 14 年と比較すると、診療所、病院とも院内は増加しているのに対し、院外は減少しているものが多く、結果として院内、院外の差が小さくなっている。

総点数

	平成 15 年		平成 14 年	
	診療所	病院	診療所	病院
院内	1018.1	1765.1	969.2	1560.7
院外	1262.6	1657.9	1273.1	1667.6

[薬剤点数] 薬剤点数(注射を除く)は、診療所では院外が約 28 点高く、病院では逆に院内が約 94 点低い。中央値と平均値の差は大きく、やはり高い方に尾を引いた歪んだ分布となっており、診療所、病院とも院外が高くなっている。診療所と病院とを比較した場合、病院の方が 2 倍前後高い。平成 14 年に比べ病院の院外で減少した他はいずれも増加している。

注射の点数を除いた薬剤点数

	平成 15 年		平成 14 年	
	診療所	病院	診療所	病院
院内	313.8	723.3	281.5	602.8
院外	342.0	629.6	334.0	668.9

[後発品の使用割合] 後発品（注射剤を除く）の割合を投薬の薬剤点数に対する比で見ると、診療所では院内の方が 5.1%高いのに対して、病院では院外の方が 0.7%高かった。また診療所と病院との比較では、院外、院内とも診療所の方が高い。平成 14 年と比較してみると、診療所の院内で増加、病院の院内で減少、院外で横ばいとなっている。

後発品の点数の割合（%）

	平成 15 年		平成 14 年	
	診療所	病院	診療所	病院
院内	10.1	2.9	9.2	3.6
院外	5.0	3.6	5.1	3.5

[使用薬剤] 高脂血症用薬（合計 5.08%）、降圧薬（合計 5.64%）、抗アレルギー薬（合計 3.44%）、抗潰瘍薬（合計 2.04%）と生活習慣病をはじめとした慢性疾患に対する薬が上位を占めている。院内と院外では大きな違いは見られない。平成 14 年は、風邪に処方されたのか抗菌薬（合計 6.28%）が高い割合を示している。

薬剤比率（%）

平成 15 年		平成 14 年	
メバロチン	2.40	メバロチン	2.73
リピトール	2.12	ノルバスク	1.87
ノルバスク	2.08	フロモックス	1.56
ラミシール	1.45	リピトール	1.53
アレグラ	1.38	クラビット	1.46

[疾患別総点数] 「注射なし」のレセプトについて、総点数を疾患別で比較すると、病院、診療所とも「糖尿病」が最も高い。診療所と病院とでは一般的には病院の方が高いが、「うつ病」と「骨粗鬆症」の院内は診療所の方が高かった。

疾患別総点数（平成 15 年）

		うつ病	高血圧症	高脂血症	骨粗鬆症	糖尿病	急性上気道炎
院内	診療所	1588.1	1310.2	1409.0	1161.1	1901.7	594.6
	病院	1469.6	1700.1	1786.9	1135.1	2347.8	663.6
院外	診療所	1870.6	1665.8	1751.6	1266.2	2195.6	777.6
	病院	1776.6	1644.7	1824.1	1563.3	2266.8	795.3

[疾患別薬剤点数] 薬剤点数(注射を除く)は、病院、診療所とも「糖尿病」が最も高い。総点数に占める割合は、診療所では「高脂血症」、「骨粗鬆症」及び「高血圧症」がほぼ同じ割合で高く、病院では「骨粗鬆症」が最も高い。診療所と病院とを比べると、「急性上気道炎」を除き病院の方が高く、総点数に占める割合も高い。

疾患別薬剤点数(平成15年)

		うつ病	高血圧症	高脂血症	骨粗鬆症	糖尿病	急性上気道炎
院内	診療所	623.6	556.2	605.8	496.5	705.2	142.9
	病院	709.8	969.5	1041.7	718.6	1073.2	93.1
院外	診療所	620.2	599.4	596.1	521.8	720.2	150.1
	病院	711.6	886.5	899.4	812.4	989.6	142.4

[疾患別後発品の使用割合] 後発品の点数の割合が最も高いのは、院内、院外とも「骨粗鬆症」で、次いで「急性上気道炎」である。院内、院外を比較するとすべての疾患で院内の方が高い。平成14年に比べ全般的に後発医薬品の点数の割合は増加しているが、「うつ病」と「急性上気道炎」では院内、院外とも減少した。

疾患別後発品の点数の割合(%)

		うつ病	高血圧症	高脂血症	骨粗鬆症	糖尿病	急性上気道炎
院内	平成15年	2.99	5.59	6.74	7.30	4.94	7.14
	平成14年	3.51	4.71	4.72	6.21	4.09	7.36
院外	平成15年	1.62	3.31	3.61	4.89	3.13	4.14
	平成14年	2.05	3.12	3.72	3.69	3.20	4.75

[疾患別使用薬剤] 使用されている薬剤上位5品目の薬剤費に占める割合が最も高いのは院内、院外とも「うつ病」であり、慢性疾患の中では「糖尿病」が最も低い。平成14年に比べ上位5品目の割合は、「うつ病」では増加しているのに対し、その他の疾患では一部を除き減少している。これらの疾患においては、新薬への使用シフトがあったことが想定される。

疾患別使用薬剤上位5品目の占める割合(%)

		うつ病	高血圧症	高脂血症	骨粗鬆症	糖尿病	急性上気道炎
院内	平成15年	41.73	29.28	41.51	40.51	26.91	20.28
	平成14年	38.87	32.58	60.33	43.84	35.39	23.80
院外	平成15年	46.74	35.51	44.33	39.56	29.94	25.66
	平成14年	32.33	29.92	52.76	45.39	32.13	19.12

[疾患別投薬日数] 平成 14 年の診療報酬改定により投与日数の制限が原則廃止された。そこで、慢性疾患における投与日数を調べたところ、平均投与日数が最も長かったのは「糖尿病」であり、投与日数が 31 日以上の割合も最も高い。平成 14 年と比べ平均投与日数、投与日数が 31 日以上の割合ともに増加しており、長期投与が拡大していることが伺える。特に骨粗鬆症では、平均投与日数が 6.1 日の増加、また糖尿病では、投与日数が 31 日以上の割合が 8.3%の増加と大幅な増加が見られる。

疾患別投与日数

		うつ病	高血圧症	高脂血症	骨粗鬆症	糖尿病
平均投与日数(日)	平成 15 年	17.0	24.7	24.4	27.0	27.2
	平成 14 年	15.8	22.6	22.5	20.9	24.7
投与日数が 31 日以上の割合(%)	平成 15 年	1.8	4.6	8.5	11.9	17.5
	平成 14 年	0.9	4.3	5.3	6.8	9.2